

〈ゆうゆうの里〉は、環境が良くて 一目惚れでした

伊豆高原〈ゆうゆうの里〉

古山啓様（69歳）・芳枝様（70歳）平成30年4月 夫婦入居

同じ会社で出会って21歳と22歳で結婚。もう少しで金婚式です

ご主人 私は昭和44年電電公社（現NTT）に18歳で入社。最初の仕事は主に電話交換機の保守でした。その後60歳まで仕事を続け退職しました。

奥様 私は昭和43年に18歳で入社。夫の一年先輩です。最初は電話の交換手になり、その後は営業系や窓口の仕事をしました。交換手って今はないけど、誰かが電話をかけてきたときに回線同士をつなぐのがお仕事なの。

奥様 出会いですか。会社が主催するクリスマスのダンスパーティーで出会ったの。

ご主人 当時はスキーやキャンプとか、会社がそういうのを積極的に対応してくれていたんだね。

奥様 その頃の彼はすごく優しくかった。全部私に合わせてくれて、私は自由でいられたの。今は違いますけどね（笑）。電話も頻繁にかけてくるし、すごく積極的だったわ。私たちの結婚は21歳と22歳の時。結婚生活は、気の合う友達のご共同生活みたいな暮らしでした。

〈ゆうゆうの里〉の環境に 一目惚れ

ご主人 退職後は、好きなことをやろうと思っていたが病気三昧でした。前立腺癌、脊柱管狭窄症でずっと病院通い。なんども手術をして、生きた心地がしなかったね。奥様 私も当時のことは、本当に心配しました。その後、彼は「老

後は老人ホームだ、老人ホームだ」と、口癖のように言うようになったのね。
ご主人 子供がいなかったからね。

奥様 そうそう。この広告を見て遊び半分に見学に行かないって彼を誘ったのです。

二人 初めて見て、老人ホームのイメージがひっくり返りました。この環境に一目惚れですよ。そしてマンションも売りに出したらすぐに買い手がついた。

ご主人 しかも、八丈島の家も売れた。そういうタイミングであるんですね。

今は野鳥の撮影にはまっています（ご主人）

ご主人 海も山もあって気候も温暖。生まれ育った八丈島の環境に似ています。撮影場所としても最高です。写真撮る人ってどこか遠くに出向くけど、ここではどこにでも撮影スポットがあります。最近はずっといるのは野鳥です。隣には思いのほか野鳥が生息しています。凝り性なので、まずは撮影のために野鳥の本を買ってきて熟読しました。どんな鳥か、どんな習性か、餌はどのくらいやたらいいとか、写真を撮りながら覚えていきます。

奥様 本当にかわいいのよ。東京にいる時は、こんな生活ができるなんて夢にも思わなかったわ。

ご主人 お庭に水飲み場をつくったら水を飲みに来たんです。絶対

のシャッターチャンスですよ。でも写真を撮っても全然逃げないんだ。安心してちやちやてるのかな。餌をついばみに手にものつてきますよ。

ここは退屈しない場所

奥様 私はギターサークル、健康体操を楽しんでいます。入居者の方と散歩もよくします。東京で退職してたくさん時間ができた時に、いきなり趣味を作ろうと思っても何やっていいかわからなかった。ここでは、自然の流れで始められることができる。お散歩もお隣に誘われたのがきっかけ。やる気があれば、初めてのものでも挑戦できます。だから、ここは決して退屈しないところですね。



庭で水を飲むヤマガラ（古山 啓様撮影）